

あけましておめでとうございます。平素は町行政に対し、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。皆さまにとって素晴らしい1年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

世界は、大きな転換期を迎えようとしています。科学技術の進歩に目を向けるだけでもインターネットが国境をまたぎ、AI(人工知能)が私たちの暮らしの中に浸透しようとしています。やがて自動運転や無人店舗、キャッシュレスは当たり前になるでしょう。

しかし、未来は明るさだけでなく、`副作用`ももたらします。そのひとつが「格差」です。格差は、個人だけではなく、地域にも生じ始めています。たとえば「東京一極集中」、都内では東京五輪に向けて新しいビルが次々と建ち、通りは若者の姿であふれています。

一方で、多くの市町村では、災害の発生や人口減少におびえ、財政難に頭を抱え、地域経済の活性化策を探しあぐねています。笠松町もいくつもの課題に直面しています。しかし、うつむいて、ため息をついているだけでは、なにも解決できません。私たちには、次世代に未来を引き渡すという重い責任があります。

幸いにも笠松町には多くの強みや資産があります。木曾川の豊かな自然、歴史と文化、特急電車が停まる駅、医療施設の充実、郷土を愛する人々…



問題は、これらの活かし方です。笠松町でもそろそろ大きな転換が必要です。そこで、これまで行政が主導だった「まちづくり」に民間の知恵とネットワーク、スピード感を取り入れることで、新たな息吹を吹き込みたいと考えています。

その第一歩として、町長に就任した昨年7月以降、各分野で活躍している笠松町ゆかりの人に知見を求める「政策アドバイザー制度」を発足させたり、岐阜聖徳大学と包括的連携協定を締結しました。このほか`対話の町政`の一環として、タウンミーティングを町内各地で開催、「町民バス」と「ごみ減量化」をテーマに多くの方と意見交換をしました。

今年も「豊かさや安らぎのある町」のビジョンの下、新しい試みに積極的に挑戦していくつもりです。目指すは「令和に光り輝く笠松町」の実現。ぜひ町民の皆さま方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



# 令和2年 新

## 豊かさや安らぎのある町をめざして

笠松町長 古田 聖人

あけましておめでとうございます。

新春を迎えるにあたり、町議会を代表してごあいさつを申し上げます。

町民の皆さまには、日頃から町政発展並びに町議会に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

去年は、元号が平成から令和に変わり、笠松町にとりましても広江町長から古田町長へと変わり、節目の新時代を迎えました。

しかしながら、8月の九州北部豪雨では佐賀県・長崎県が、9月には台風15号で千葉県・茨城県・福島県が、そして10月には台風19号の影響により長野県をはじめ関東・東北の広範囲で河川が氾濫するなど、過去に例のない未曾有の災害を受けました。被害を受けられた方々に衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。この地域では、幸いにして被害はありませんでしたが、災害はいつ起こるかわかりませんので、防災、減災には十分な対策を講じておく必要性を改めて痛感しました。



一方で、地方を取り巻く環境は厳しさを増しています。笠松町においても新時代に向けて多くの課題が山積しており、その一つとして少子高齢化による人口減少問題があります。当然ながら、人口が減少すれば税収も減り、社会保障費は高騰することが予測されます。そして、その費用は町民の皆さんで負担していただくことにもなりかねません。

また、昭和30年代、40年代に整備した道路や橋、側溝といった社会インフラも再整備する時期にきており、多額の経費が必要となっており、

こうしたことに対応するためには、町民の皆さんに負担していただく前に、新たな収入に活路を見いだす必要があります。議会といたしましても古田町長と手を携え、町民の皆さんにご理解ご支援いただける政策を実現したいと考えております。

今年も議会活動への一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、町民の皆さまには令和がよりよき時代となりますことを祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

令和2年 笠松町議会

# 年のご挨拶

よりよき令和の時代に

笠松町議会 議長 伏屋 隆男

